

東北文化学園大学看護学科紀要

投稿規定

東北文化学園大学医療福祉学部

看護学科紀要委員会

本学科が発行する機関誌の名称は「東北文化学園大学（医療福祉学部）看護学科紀要」とする。

本誌は本学医療福祉学部看護学科の看護学科の研究活動の一環として設けられたものであり、学術研究の発展と教育の向上を図ることを目的とする。

【投稿資格】

1. 本誌の投稿は本学科の教員（非常勤を含む）、大学院生、卒業生、修了生、およびその共同研究者、あるいは紀要委員会が依頼した執筆者とする。

【学術論文と記事の種類】

1. 本誌には学術論文と記事を掲載する。

学術論文とは、以下に示すものをいう。

総説：最近の学術的・技術的知見や成果を、歴史的背景、重要性、進捗状況、将来の方向等を踏まえつつ、総合的に論述したもの

原著：看護学および医学分野の発展に寄与する独創的研究

報告：看護学および医学分野の発展に寄与する報告研究

記事とは、研修報告など、紀要委員会が許可したものをいう。

2. 上記のいずれとして掲載するか投稿者の申請を考慮して紀要委員会が決定する。
3. 原稿は、原則として別途認める執筆要項に従って作成する。

【論文の投稿・受理】

1. 投稿者は、原稿と電子ファイルを記録したメディアを **10 月末までに**、紀要委員会まで提出するものとする。
2. 投稿原稿は他紙に未掲載のものでなければならない。

【査読】

1. 原稿が投稿された場合、紀要委員会は適任者 2 名を選出し、査読を依頼する。
2. 査読の意見書などの様式は、紀要委員会が定める。
3. 紀要委員会は、査読の意見書を添付し、その結果を投稿者に報告する。
4. 投稿された原稿の掲載の決定は査読者の意見を参考にして紀要委員会が行う。

【発行および編集】

1. 本誌は年一回発行とし、発行日は 3 月末日とする。
2. 本誌の発行者は東北文化学園大学医療福祉学部看護学科とする。

【原稿送り先】

〒981-8551 仙台市青葉区国見 6 丁目 45-1

東北文化学園大学 医療福祉学部 「看護学科紀要委員会」 宛

別途に配布するワードファイル（論文雛形）を使用し、以下の要領で作成してください。

【題目】

論文の題目と副題はコロン（:）でわかる。

【事態・フォントなど】

・題名は明朝体（アルファベットは century）、フォントサイズ 16 で記載する。その他(原著・本文・注釈など)は明朝体（アルファベットは century）フォントサイズ 10.5 で記載する。

・本文中の見出しは常用漢字、新かなづかいを用い、常用漢字は「医学用語辞典」（日本医学会編）などにできるだけ従うものとする。論文中の人名は原則として原語で、数字はすべて算用数字で、日本語化した外国語はカタカナ(この場合「」は不要)で記載する。

【倫理的配慮】

人動物が対象である研究は、倫理的動物愛護的に配慮され、その旨が本文中に明記されていること。

【要旨】

- ・和文要旨は 400 字以内で途中に改行は加えない。
- ・英文要旨は 400 語以内で途中に改行は加えない。
- ・5 語以内のキーワード(和文、欧文を問わない)をつける

【図表】

スペースは定められた余白より内側で本文 2 列もしくは 1 列分を用いて挿入する。

【文献】

- ・本文中の引用箇所には文献番号を記載する。
例：1) 2) 3)、1) 5) など
- ・欧文の引用文献の表題名は、頭文字以外はすべて小文字を用いる。
- ・「,」「.」に注意して記入する。

雑誌の場合

- ・「著者名(性を先とする)：表題. 発行年；巻：頁。」で記す。
- ・雑誌名の省略は、和文雑誌はその正式な略名を用いる。
- ・原著論文でははじめと終わりの頁を記す。
- ・著者名は最初の 3 名まで列挙し、その後に「・・他 (et al.)」を続ける。

例) 東博彦：寛脱臼の発育と病態.日整会誌 1989；63：377-394

Parkin DM, Clayton D, Black Rj, al et. Childhood leukaemia in Europe after Chernobyl:5year follow-up. Br J Cancer 1996;73:1066-12.

東北文化学園大学医療福祉学部看護学科 紀要

第6巻 第1号

2017年3月31日

発行者 東北文化学園大学医療福祉学部

看護学科

編集 紀要委員会

〒981-8551 仙台市青葉区国見6-45-1

(代表) Tel:022-233-3310

表紙デザイン：笹氣出版印刷株式会社

Archives of Tohoku Bunka Gakuen University Nursing

Vol. 6 No. 1



Department of Nursing, Faculty of Medical Science and
Welfare, Tohoku Bunka Gakuen University

March 2017